

事務事業名	夏休みスペシャルお話し会実施事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
施策名	21	生涯学習の推進				所属係	図書館班	課長名	野本 立一
基本事業名	78	学習やスポーツへの参加機会の提供				担当者名	末永 舞	電話番号 (内線)	096-242-5555
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠	図書館法・文字活字文化振興法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 15 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容)市内の小中学生からボランティアを募り、図書館職員と一緒に小さい子どもたちへの読み聞かせを行う。夏休み期間中に実施。 (業務の内容)市内の小中学生からボランティアを募り、図書館職員の担当を決める。小中学生に指導しながらおはなし会の会場準備・市民への周知をする。 (事業費)報酬、報償費、需用費(消耗品費)						総 費 入 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	
								都道府県支出金	
								地方債	
								その他	
								一般財源	
								事業費計 (A)	0
								正規職員従事人数	
								延べ業務時間	
								人件費計 (B)	0
								トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・小中学生9名のボランティアが集まり、大型絵本・OHPシアター・ブラックパネルシアターなどを行った。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・18年度同様。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・ボランティアについては市内の小学校上級生および中学生。おはなし会参加者は図書館利用の小学生以下の子ども及びその保護者。

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・ボランティア参加者の子どもたちの心を育て、感受性豊かな人に育てもらうために、より小さな子どもたちへの読み聞かせを体験する。
・おはなしを聞く子どもたちにはおはなしの楽しさを感じ、想像性を養う。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・学習やスポーツに参加する機会がある。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア 開催回数 回

イ
ウ

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア 市内小学生数 人

イ
ウ

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア おはなし会ボランティア参加者数 人
イ おはなし会に参加した人数 人

ウ

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称 単位

ア
イ
ウ

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入 量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		3	3	3	3	3
	事業費計 (A)	千円	0	0	3	3	3	3
	正規職員従事人数	人		3	3	3	3	3
	延べ業務時間	時間		20	20	20	20	20
	人件費計 (B)	千円	0	0	79	79	79	79
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	82	82	82	82
活動指標	ア 回			1	1	1	1	1
対象指標	ア 人			3,357	3,391	3,470	3,500	3,560
成果指標	ア 人			9	10	10	10	10
	イ 人			44	50	50	50	50
上位成果指標	ア							
	イ							
	ウ							

合志市

事務事業名	夏休みスペシャルお話会実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
・平成15年度より、図書館利用率の低い中学生を対象とした事業はなにか出来ないかと考え開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
・積極的にボランティアに参加希望する子は少ないものの、一度体験するとまた来年も参加したいという子が多い。徐々に夏休みのイベントとして認知度が上がってきている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・旧合志町の子どもたちのボランティア参加の方法を考えていくべきお話会当日、進行がモタつく場面があった。もう少し手際よく会を進められたらよかった。などの意見があった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ボランティア参加の子どもたちの心を育て、感受性豊かな人に育ってもらうために、より小さな子どもたちへの読み聞かせを体験する、おはなしを聞く子どもたちにはおはなしの楽しさを感じ、想像性を養うという意図は学習やスポーツに参加する機会を作るという結果に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・子育て日本一をうたう市長のマニフェストからこの事業は、将来の市を担う子どもたちの育成という観点により市が行うのは妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 適切である ⇒【理由】 ・市内広域の子どもたちの参加について考慮すべき面がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・図書館職員の資質を高め、よりの確かな指導をボランティアの子どもたちにしていくことでよりよいお話会が開催できると考える。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・廃止するならば子どもの心の育成を図る別の事業を企画すべきである。将来を担う子どもの情操を育てるのは図書館の勤めである。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・今のところ他に中学生が主体となって実施する事業がないため、統合はできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・ボランティアの子どもたちにも薄謝を渡すだけなので、削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・必要最低限の時間で事業をしている。削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・図書館法により図書館で主催する事業は無料で行わなくてはならないため、公正である。

合志市

事務事業名	夏休みスペシャルお話し会実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

目的妥当性について・・・市内広域の子どもたちの参加について考慮すべき面がある。
有効性について・・・図書館職員の資質を高め、よりの確な指導をボランティアの子どもたちにしていくことでよりよいお話し会が開催できると考える。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

・合志市内の広い範囲の子どもたちによるボランティア参加のために、あらかじめ学校の司書の先生と連携し、図書委員などでひとつ作品を練習してもらい、参加してもらうよう依頼する。合同練習時間を減らして西合志館まで通う回数を減らしてみる。職員研修・情報交換を積み、職員の技術を向上させ、指導力を養う。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項